創立70周年式典を開催　長崎県技師会

長崎県臨床検査技師会はこのほど、創立70周年・法人化35周年記念式典を開催した。門脇和秀会長は式辞で「66名で始まったが、現在は約900名の会員が所属する団体に成長することができた」と紹介。また、近年の10年間に注目し、臨床検査技師にとって大きな変革の時代だったと位置付け、2015年の臨床検査技師法改正により検体採取が可能になったことや、2018年の検体検査の精度確保に関する医療法改正、医師の働き方改革に伴うタスクシフト・シェアなどを挙げた。今後に向けては、「新しい一歩を踏み出し、臨床検査の未来、自分自身の未来を切り開く精神を持ち続けていきたい。そして国民と県民の医療と保健衛生に寄与することを目指し、今後も技師会活動を続けていく」と意欲を示した。

精度管理とタスクシフトの取り組み紹介

柳原氏

同記念講演会では、長崎大学大学院医歯薬学総合研究科病態解析・診断学分野の柳原克紀教授が「臨床検査のこれから～タスクシフト・シェアや精度管理を踏まえて～」と題して講演した。

長崎大学病院検査部は2017年3月にISO 15189の認定を取得。柳原氏は、精度管理や運営に関わる検査部の品質マネジメントシステムについて、検査室管理主体、品質管理者・技術管理者、主任、検査職員などの階層組織になっていると説明。階層ごとのミーティングや会議を通して、精度管理を含めたさまざまな課題や取り組みについて全員で共有することができ、漏れがなくなるとの見解を示した。

また、検査の質を高めるための具体的な取り組みとして、①標準作業手順書（SOP）②機器の導入に関する記録③機材・試薬・教育に関する記録④アドバイスサービス⑤TATの評価―を挙げた。SOPや各種の記録を残すことで管理や評価がしっかりできる。また、臨床検査技師が医師などに対して、検査プロセス全般に対する助言や専門的判断、コンサルティングなどを行う「アドバイスサービス」は、以前から検査部が実施してきたことだが、書面に残すことでアドバイス内容が明確となる。また、それらのアドバイス内容を検査部医師とも共有することができ、より的確なアドバイスサービスを臨床医へ提供できる体制になると説明した。

タスクシフト・シェアに関しては、脳神経内科の医師が診療で行っていた神経伝導速度検査について、2022年6月から検査部に新規導入。また、同病院の総合診療科睡眠覚醒障害外来の開設に伴い、2023年6月から終夜睡眠ポリグラフィー（PSG）検査を新規に導入した。柳原氏は、タスクシフト・シェアについて、生理機能検査分野で臨床検査技師が関われるところが大きいとの認識を示した。

記念式典風景